

“森から世界を変える” REDD+プラットフォーム  
ビジネスモデル分科会

---

## 第1回定例会

---

2014年12月24日 13:30~14:00

ビジネスモデル分科会事務局

 住友林業



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

# 民間事業者が参画するREDD+の見通し



REDD+等の森林保全活動に関する公的支援や民間資金の組み合わせや、森林保全に資する民間ビジネスモデル等について検討を行います

森林総合研究所が蓄積してきた知見・経験 (REDD-plus COOKBOOK等)

JICAによる森林保全、モニタリング、生計向上等に係る能力開発の実績・途上国側とのネットワーク

Step 1

CSRを中心とした取組

- 環境・社会貢献
- 環境教育の促進/等
- 活動資金の拠出

Step 2

ビジネス活動と連動した取組

- サプライチェーン強化と森林保全
- 林産物・地場産物調達と生計向上
- 持続的経営 (森林・農業・鉱業)
- 森林保全に係る技術提供 (算定方法論開発、炭素モニタリング)

Step 3

地球温暖化対策における国際貢献

- JCM REDD+事業展開
- 我が国の排出削減に貢献
- 日本製品・サービスの、REDD+分野での海外展開
- 炭素クレジットビジネス

# ビジネスモデル分科会において優先すべき検討事項

REDD+活動の実施

従来ODA事業の  
実施者  
(開発コンサル、航測  
会社、NGO等)

森林保全の  
主要プレイヤー  
(現状ではFS事業者等  
にとどまる)

REDD+ビジネス  
モデルの具現化

大多数の関係者

温暖化ビジネスの  
実施者  
(クレジットプロバイ  
ダー、商社、ファンド  
等)

分科会の  
初期段階のターゲット

ビジネス化

- 先行的に取組を進めている「森林保全の主要プレイヤー」が REDD+ビジネスをけん引していく可能性が高い
- そのために、ODAの実績・基盤の活用といった公的支援だけでなく、多くの関係者からの活動資金拠出やクレジット購入といった**民間支援**が必要
- 本分科会では、とくに、民間支援のあり方に着目する

民間支援の獲得に向けて：  
支援者の裾野を広げる

- ・ 新規プレイヤー参入のための足場づくり
- ・ 既存プレイヤーとの連携構築

※ 民間の取組を補完する公的支援についても考慮

## ビジネスモデル分科会の実施方針

- わが国のREDD+を民間の力によって進めるため、REDD+に関わる民間事業者の裾野を拡大し、新規参入プレイヤーと既存プレイヤーがWin-Winの関係となる連携モデルを構築する
  - 新規参入プレイヤーの足場づくりのため、REDD+に参画することのインセンティブを明確化する
  - REDD+の事業としての具現化プロセスを明確にする
  - 民間の取組促進に必要な公的支援のあり方についても、検討を行う

これらの活動を通してビジネスモデルを構築し、  
加盟団体に成果を還元するとともに、モデルを世の中に発信していく

# ビジネスモデル分科会の定例会と勉強会の位置づけ

## 定例会

- 分科会の意思決定機関。実施方針の決定や、民間主体のREDD+ビジネスモデル構築のとりまとめを行う
- 検討すべき課題を抽出、それらについて勉強会で得られた知見や意見を取りまとめ、モデル構築に反映させる
- 加盟団体のみ参加可能

## 勉強会

- 定例会で決定される実施方針を受けて、関係者間で参考となる情報・経験を共有する
- 裾野の拡大という分科会のコンセプトを踏まえ、関心を有する幅広いプレイヤーが参画可能なセミオープンで開催
- 今年度中に2回程度の開催を予定



## 勉強会で取り扱うテーマ（案）

---

### ■ REDD+ビジネス及び参考となりうる事例

- 国内外におけるREDD+クレジットの取引・活用事例
- 基金の活用やCSRへの貢献をアピールした、裾野の拡大を目指した取組の事例

### ■ REDD+の事業化ステップ

- 事前準備 → 体制整備・実施 → 成果の活用 の各行程における課題及び対処のポイント